

本学教員の企画・運営による、首里杜まちづくり推進協議会と観光学術学会との共同フォーラムの開催

国際地域創造学部・教授 越智正樹

1. 首里杜まちづくり推進協議会

首里杜まちづくり推進協議会 首里杜地区整備基本計画のもと 2022年9月21日設立

【協議会の事務局】 首里まちづくりに関わって来た6つの市民団体の連絡会議

県首里城復興課+市都市計画課+首里社会議+受託コンサルタント

【協議会の参加者】 県・市の関連課+各市民団体+大学関係者など

協議会のもとの部会編成

R6年度第1回協議会資料より
<https://www.pref.okinawa.jp/machizukuri/toshi/1012859/1012860/1012871.html>

●まちづくり推進協議会の構成メンバーである本学教員

池田孝之（工学部・名誉教授）、神谷大介（工学部・教授）、麻生伸一（人文社会学部・教授）、越智、古堅勝也（研究共創機構・特命教授）、小島肇（同・准教授）

※上段の4名は、R2年度の県「首里城復興基本計画」策定時から委員等として参画してきた。

●持続可能な観光ワーキンググループのメンバー

地域：NPO 法人首里まちづくり研究会（正副理事長、事務局次長）

学術機関：越智

行政：沖縄県首里城復興課、那覇市都市計画課、同観光課

業務受託者

2. 観光学術学会全国大会

今年度は14回目にして初の沖縄開催。

- 第13回大会（於：阪南大学）
参加者数：217名（一般・大学院生：147名、学生：70名）
発表者数：一般研究発表29件、テーマセッション5件、学部学生ポスターセッション29件
- 第12回大会（於：立教大学）
参加者数：212名（一般・大学院生：160名、学生：52名）
発表者数：一般研究発表21件、テーマセッション5件、学部学生ポスターセッション20件（うち1件審査対象外）
- 第11回大会（於：奈良県立大学）オンライン開催
参加者数：142名（一般・大学院生：119名、学生：23名）
発表者数：一般研究発表20件、テーマセッション1件、学部学生ポスターセッション12件
- 第10回大会（於：京都外国語大学）オンライン開催
参加者数：306名（一般・大学院生：156名、学生：150名）
発表者数：一般研究発表29件、テーマセッション3件、学部学生ポスターセッション19件
- 第9回大会→新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止
- 第8回大会（於：立命館アジア太平洋大学）
参加者数：141名（一般・大学院生：118名、学生：23名）
発表者数：一般研究発表43件、学部学生ポスターセッション4件
- 第7回大会（於：二松学舎大学）
参加者数：321名（一般・大学院生：148名、学生：173名）
発表者数：一般研究発表35件、学部学生ポスターセッション10件
- 第6回大会（於：神戸山手大学）
参加者数：132名（一般・大学院生：110名（うち人文地理学会員12名）、学生：22名）
発表者数：一般研究発表21件、学部学生ポスターセッション5件
- 第5回大会（於：立命館大学）
参加者数：208名（一般・大学院生：134名、学部生：74名）
発表者数：一般研究発表32件、学部学生ポスターセッション7件
- 第4回大会（於：阪南大学）
参加者数：183名（一般：109名、大学院生：32名、学部生：42名）
発表者数：一般研究発表36件、学部学生ポスターセッション10件
- 第3回大会（於：京都文教大学）
参加者数：167名（一般：105名、大学院生：22名、学部生：40名）
発表者数：一般研究発表26件、学部学生ポスターセッション15件
- 第2回大会（於：奈良県立大学）
参加者数：140名（一般：108名、学部生：32名）
発表者数：一般研究発表20件、学部学生ポスターセッション4件
- 第1回大会（於：和歌山大学）
参加者数：146名（一般：118名、学部生：28名）
発表者数：一般研究発表24件、学部学生ポスターセッション15件

●大会実行委員会

越智（委員長）、屋宜智恵美（国際地域創造学部・准教授）、西坂涼（同講師）、波多野想（島嶼地域科学研究所・教授）

※全員、観光学術学会員。

●学会大会の内容

大別すると「学会各種委員会による企画」と「会員が応募して行う発表」の2種類がある。

本学会の場合、前者として以下の2つを行っている。

〈研究シンポジウム〉

研究企画委員会が企画する。先端的な学術テーマに沿って3~5名程度の研究者が報告をし、次年度の学会誌に特集論文を掲載する。

〈フォーラム〉

大会実行委員会が企画する。後日の論文作成は前提とせず、実行委員会が話題としたいテーマに沿って登壇者を選び、自由な議論を行う。

	フォーラムタイトル	研究者以外の登壇者
2025年度	「首里城焼失後の周辺まちづくりの現在地」	NPO 法人 首里まちづくり研究会 沖縄県首里城復興課 那覇市観光課
2024年度	「万博に向けてグレートミナミ構想で大阪府南部を活性化させる戦略」	大阪商工会議所地域振興部 大阪観光局
2023年度	「日本における社会学的観光研究の展開」	なし
2022年度	「コロナ禍における観光教育」	なし
2021年度	「観光研究の系（スレッド）を未来へ結ぶ」	なし
2020年度	(コロナ禍の影響により中止)	—
2019年度	「観光教育と世界観光倫理憲章」	なし
2018年度	「デジタル時代の地図と観光」	なし
2017年度	(フォーラム開催なし)	—
2016年度	「若手研究者からみた観光学」	なし
2015年度	「大学における観光教育」	なし
2014年度	「『産官学民の連携に基づく観光人材育成』に関する理論の構築に向けて」	なし
2013年度	「観光研究と文化論的転回、その後」	なし
2012年度	(フォーラム開催なし)	—

3. 今次取組の特徴

学会主催イベントである「フォーラム」を、まちづくり協議会のワーキングの「会合」を兼ねるものとして開催することを越智が企画し、登壇者は（越智を除き）研究者ではなく協議会メンバーの官民のみとした。

これにより、まちづくり協議会メンバーが学会大会に主体的に参画でき、かつ全国の研究者らがまちづくり協議会の議論に参加できる。すなわち、持続可能な観光とまちづくりに関する意見交換を、当事者たる官民と全国の研究者とが同じ土俵で直接的に行えるようにする仕掛けであり、学術・研究者による地域連携のあり方を広げる試みである。

フォーラム
首里城焼失後の周辺まちづくりの現在地

主催：観光学会
共催：首里杜まちづくり推進協議会
後援：琉球大学研究共創機構

首里杜まちづくり推進協議会は、首里城焼失後のまちづくりについて官民で協議する場として、2022年9月に設立されました。この協議会は下部組織として「景観・歴史文化部会」と「暮らし・生活環境部会」を設けて参りましたが、これらに加えて2024年度、「持続可能な観光ワーキンググループ」を新たに設置しました。

一方、観光学会は、観光学の学術的発展と普及を図ることを目的とする全国学会として、2012年2月に設立されました。毎年全国大会を開催して参りましたが、今年初めて、これを沖縄で開催することとなりました。

そこで、学会大会の一環として開催する「フォーラム」を、持続可能な観光ワーキンググループの「2025年度プレワーキング」との合同イベントとして、下記のとおり開催いたします。壇上とフロアの垣根を極力なくして、会場ご参加者全員でのワーキングを行いたいと考えております。

首里社会議（首里杜地区まちづくり団体連絡協議会）の皆様や県・那覇市の関連部署の皆様におかれましてはぜひ会場でのご参加を、観光学会会員の皆様におかれましては全国からご参集の専門家としてぜひワーキングでご発言を、メディア関係の皆様におかれましてはぜひ会場での取材をいただきたく、宜しくお申し上げます。

記

日時：2025年7月5日（土）10:00～11:30
場所：琉球大学千原キャンパス文系講義棟215教室
内容：



第一部	首里杜まちづくり推進協議会についての説明	越智 正樹（琉球大学・教授）
第二部	持続可能な観光ワーキング「2025年度プレワーキング」（ワーキングが今年度または将来的に行うべきこと、目指すべきことなどに関するブレインストーミング）	【壇上】 伊良波 朝義氏（NPO法人首里まちづくり研究会・理事長） いのうえ ちず氏（同・副理事長） 知念 武紀氏（沖縄県首里城復興課・復興推進班長） 與那覇 博訓氏（那覇市観光課・観光総務グループ主幹） 越智 正樹 +フロアの皆様方（主に観光学会会員）

想定するフロアご参加者（学会員以外の方は上記QRコードのフォームからお申込みいただくと参加無料です）
観光学会大会ご参加者、首里杜まちづくり推進協議会の皆様（官民）、首里社会議の皆様、
ご登壇団体・部署のご関係者、琉球大学学生

以上